

平成19年10月26日

国連軍後方司令部のキャンプ座間から横田飛行場への移転について

このことについて、防衛省北関東防衛局から下記のとおり情報提供がありましたので、お知らせします。

記

現在、国連軍地位協定に基づきキャンプ座間に置かれている国連軍後方司令部が、11月上旬（2日を予定）に横田飛行場へ移転する予定である。

移転の理由は、キャンプ座間に国連軍後方司令部が置かれた1950年代当時と比べて国連軍を取り巻く状況が大きく変化し、従前に比べ、キャンプ座間に所在する米陸軍との調整に係る業務の割合が低下し、他方で横田飛行場に所在する在日米軍司令部及び米空軍との調整に業務の中心が移ったことを受け、今般、横田飛行場への移転を行うものである。

移転する国連軍後方司令部は4名（軍人3名、軍属1名）の構成員からなる組織であり、移転に際しても横田飛行場の施設を利用するため施設の増設は行われぬものと承知している。

国連軍について

国連軍は、1950年6月の朝鮮戦争の勃発に伴い、「武力攻撃を撃退し、この地域における国際の平和と安全を回復することを目的（同月27日の国連安保理決議83）の勧告に基づき創設された。

日本は、1954年に米国・英国・フランスなど10ヶ国（現在は8ヶ国）と国際連合の軍隊の地位に関する協定（国連軍地位協定）を結んでおり、この協定に基づき1957年にキャンプ座間に「国連軍後方司令部」が設置された。

日本に駐在する国連軍後方司令部は、戦闘行為を行う部隊ではなく、韓国に置かれている国連軍本部に対して十分な兵たん上の援助を与える必要最小限度に限るものとされている。

現在、連絡業務、オリエンテーション等のため日本に航空機や船舶を出入りさせているが、国連軍後方司令部は在日米軍司令部等とそれに関する調整を行っている。